



かさまつの子

笠松町道德教育連絡会議

・三年生とボランティア体験
 選択の授業でお年寄りと触れ合う機会が多く、子どもからいろいろな施設の話や接し方を聞いています。



毎年八月の第一日曜日に行っているもので、今年で七年目になります。多年にわたる活動に対して、

笠松中学校PTA
 会長 福井 真一

ボランティアと笠中PTA

笠松中学校PTAの今年度の活動方針は「より良い教育環境のため、できることを一歩ずつ」です。これは、多くのPTA会員の皆さんに協力いただける活動を計画し、一歩ずつ確実に実行していくことにより、学校・家庭・地域が一緒になって子どもたちを育てていきたいという考えで決めたものです。

ボランティア

ボランティア活動は近年各方面でその重要性が叫ばれています。子どもだけに「ボランティアをやりなさい」と言う前に親自身が福祉に対する理解を高め、実際に体験しその重要性を認識して実践していく必要があると言っている、取り入れていきます。

以下、笠中学校PTAの活動をご紹介します。



した。今回、親子で参加してみても私たちの様子がよくわかりました。核家族が増え普段接したことのないお年寄りにも声をかけたいの、か戸惑う姿や、勇気をだして声をかけ返事をしてもらった時の子どもたちのうれしそうなお顔がとても印象的でした。親も子どもたちと同じように「自分でも役に立つことがある」ということを実感することができました。

(参加者の感想から)

・親子木曾川クリーン活動

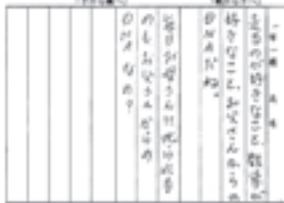
木曾川クリーン活動は、郷土の財産である木曾川を自分たちの手できれいにしようと、親子で

国土交通省と町から感謝状をいただきました。

思いを綴る「おやじ」の発行

中学校の三年間は子どもたちが自我に目覚め、大きく成長する極めて大切な時期です。自我に目覚める過程で俗に言う「反抗期」となり、親子の会話が難しい時期になります。そんな時期だからこそ、子育てに対して、父親の積極的な関わりが切望されています。

このような状況の中、今回で四十二号を迎える本誌「おやじ」を通して、親子が、日頃なかなか口に出しては言えない思いを書いていただき、



「他の親子の思い」も合わせて読んでいただくことで、一層の意思の疎通が図られることを願って発刊いたしました。

今後とも活動がマンネリ化しないよう工夫を凝らし、子どもたちにとつて学校・家庭・地域が楽しいものであるように願って活動していきたいと思えます。



教育委員会だより

教育電話相談

悩んだら
 気軽に電話してください。
 郡四町教育委員会
 ☎245・1133

学校週五日制もやっと定着してきた感があります。子どもたちの生活は、どんな変化を見せたのでしょうか。保護者のかたは、どう感じておられるのでしょうか。

保護者の反応から

親の休みと合わせられない土曜日の行事が増えた子どもは疲れ、親の負担が増えたのではないかと生活リズムがちんとしていない家族でふれ合う時間が減った子どもが手伝い・仕事をすべくようになった時間ゆとりができた自分で決めてやりたい事をしている

子どもたちの反応から

部活・習い事があってこれまでと変わらない家にも「ころころ」ガラガラしてしまいう家族とのふれあいはあまり変わらないゆとり・ゆとりが増えた自分の時間が増えて休める時間の使い方を決めて遊

子どもと保護者の「学校週5日制」

び・部活・宿題ができる。このような意見が聞かれました。どうも、一人ひとりが自分の時間をいかに計画的に使うとすることが、二日間の差を生み出すようです。

保護者のかたには仕事があり時間が生み出せない事も多いようです。「やること」と「のんびりする時間」を家族会議などではっきりさせてみてはどうでしょうか。「学力低下」や「授業の進度」に対する不安も聞かれました。これには、授業形態の工夫・一人ひとりに応じた指導の充実などで対応しようとしています。

学習内容では「知識の量」ばかりでなく、「自分で課題を見つけ方」を考えて解決する」といったような「学び方」を身につけることにも力を入れ、「生きる力」を育てようとしています。十二月のアンケートの結果は、今度の機会にお知らせしたいと思います。